

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300546		
法人名	社会福祉法人 不二福祉事業会		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	愛知県蒲郡市竹谷町奥林29-1		
自己評価作成日	令和1年10月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様一人一人の個性を尊重している。 ・対応の難しい方(帰宅欲求の強い方、入浴拒否の強い方他)にも辛抱強く向き合っており、ご家族にも協力して頂いてケアにあたっている。 ・ホームで作った出来立ての温かい食事を食べて頂いている。 ・毎月、季節の行事やお出かけなどを計画して、楽しんで頂いている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2373300546-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームでは、同じ建物の2階のスペースを活用して、運営法人の関連の地域包括支援センターが開設されたことで、地域包括支援センターと併設しているグループホームでもある。地域包括支援センターとグループホームが同じ出入口でもあることで、ホームには日常的に様々な方が訪問していることで、多くの方がホームを知ってもらう機会にもつながっている。ホームの日常生活に関する支援については、これまでと変更はなく、1ユニットの少人数の利用者と職員が生活しているホームである利点を活かしながら、利用者一人ひとりに寄り添った支援が行われており、利用者がホームで楽しくのんびりと過ごすことができるような生活環境がつけられている。また、年間を通じて多くの外出行事が行われており、利用者が様々な場所へ外出しながら、利用者の楽しみと思い出をつくる取り組みが行われている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和1年11月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念が玄関や事務室に掲示されており、常に意識して日々の支援に努めている。ミーティング時にも話し合っ、理念に基づいた支援の統一を図っている。	利用者一人ひとりに合わせた支援を目指した内容の理念を掲げており、ホーム内に掲示し、職員間で理念の内容の共有が行われている。毎月の職員会議等を通じて振り返りの機会をつくり、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民として、自治会に参加しており、盆踊りやお祭りなどの地域行事に参加している。	地域で行われている行事(盆踊り等)に参加したり、地域の保育園との交流が行われている。また、地域包括支援センターを併設することになったことで、多くの地域の方がホームを訪問するようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	買い物や散歩、地域行事への参加によって地域の方達との交流の機会を持ち、認知症の高齢者への理解が得られるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地区の役員、市の担当者、包括支援センターの職員等を招いて、日頃のホームの様子や外部評価の結果報告を行っている。また、市の出前講座を依頼して、興味を持って参加して頂ける工夫をしている。	会議の際には、ホームの運営状況を記載した資料を作成しながら、出席者にホームへの理解を深めてもらう働きかけが行われている。また、会議を通じて、市職員に出前講座をお願いする機会をつくっており、ホームの運営につなげている。	会議に家族の参加が得られていないことが多い状況でもあるため、ホームからの継続的な働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の介護サービス連絡協議会に参加しており、他事業者との情報交換を行ったり、協議会主催の研修会に参加している。	市内の介護事業所が集まる連絡会等にホームからも参加する機会をつくり、情報交換等の機会につなげている。また、ホーム建物の2階に地域包括支援センターを併設することになったことで、定期的及び随時の連携にもつながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者の人権を守るという意味で、玄関、門扉は夜間以外は施錠を行っていない。また、昨年度途中より、身体拘束等の適正化を検討する委員会を立ち上げ、「身体拘束廃止の指針」を作成した。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、玄関にも施錠を行わない支援に取り組んでいる。また、専門の委員会を通じた検討会議や定期的な職員研修を実施している他にも、利用者に関する検討も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員ミーティング時において、高齢者虐待の事例を紹介し職員間で意見を出し合うなど、定期的に勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について職員ミーティングにて勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際、ご家族や利用者に納得して頂けるように説明を行い、同意を得ている。施設を退所される際も、相手の立場になって考え、今後の生活についての不安を減らす事ができるように相談に乗っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から面会に来られた時に、家族の意向や要望を聞く機会を持つように努めている。	ホームでは、食事会等を通じた家族との交流の取り組みが行われている。家族からの要望等については、寄せられた内容にも合わせながらホーム管理者や運営法人の幹部職員による対応が行われている。また、毎月のホーム便り作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な職員ミーティング以外にも、日々の支援の中で気づいた事等をその都度話し合い、支援につなげている。	毎月の職員会議の他にも、1ユニットの少人数の職員体制の利点を活かしながら、日常的にも職員間で意見交換が行われており、管理者を通じて、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員との個別面談も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課により、各自が向上心を持って働けるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は段階に応じて参加できる機会を設けている。研修後はレポート提出や随時ミーティングで報告し、知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市の連絡協議会に参加し、他事業者との情報交換の場となっている。同法人内のグループホームと、年2回の合同行事を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接でこれまでの生活歴を聞き、本人の求めている事、不安に感じている事を理解できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所当初は、家族への近況報告をこまめに行い、常にコミュニケーションを図って話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族のニーズを把握して共有することで、信頼関係を築き、最善の対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常の家事に対しても、入居者主体で支援している。入居者の生活の場であることを常に意識し、日々関わりを持つように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	これまでの家族関係を理解し、入居者の情報を共有することで、共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所する前に通っていた場所へ継続して通えるように支援したり、友人、知人の面会もあり、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。	利用者の中には、家族の協力も得ながら入居前からの生活習慣を継続している方もあり、馴染みの方との交流等にもつながっている。また、家族との外出も行われており、食事や買い物をはじめ、自宅に戻り、家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者一人一人の個性を尊重して、コミュニケーションが取れるようにサポートしている。気の合う人と買い物や散歩に出掛けたり、共に支えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	移り住む先の関係者には、本人の生活の状況等の情報を伝えて、新しい生活へスムーズに移行できるようにサポートしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン立案時には、本人とゆっくり話す時間を設け、生活への希望や意向、本人の思いを聞き取り、ケアプランに盛り込んでいる。また、ご家族や前のケアマネージャーからも情報を得て、ケアプラン作成を行っている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向や状況等の共有が行われている。また、利用者の「できる事、できない事」を職員間で検討する取り組みを行いながら、利用者の意向等を日常の支援に反映するように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	申込み時や入所決定時に、生活歴、環境、日々の生活の様子、趣味、既往歴等を聞き取り、ケアプランに盛り込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員ミーティングの際、本人のできる事、出来ない事の情報の交換、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の思いや意向を聞き、毎月職員ミーティングにて意見交換しながらカンフェレンスを行っている。	介護計画については、6か月での見直しが行われている。担当職員も参加しながら毎月のモニタリングを実施している。また、日常的にも介護計画に合わせた記録を残すことで、日常的なチェックが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の介護記録に食事量、バイタル、入浴、排便など日々の暮らしの様子を記録し、職員間で共有できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	定期、不定期(体調不良時)の受診は基本的には、ご家族の付き添いにて行って頂いているが、緊急時はホームで臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	大正琴のボランティアの方が定期的に、来て下さっている。警察、消防等、何かある時は協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所以前からのかかりつけ医に、ご家族が付き添って受診して頂いている。受診の際、日頃の様子やバイタルなどの情報を医療機関に提供している。	ホームでは、多くの利用者が今までのかかりつけ医を継続しており、家族による受診支援が行われている。ホームからは利用者の健康状態等に関する情報提供が行われている。また、看護師が勤務しており、医療面での支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員により、日常の健康管理や医療活用の支援、緊急時に対する支援に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、安心して治療ができるよう、入院時の様子を見にお見舞いに行ったり、医療関係者と情報交換を行っている。退院時は、今後の生活支援について医師、家族、本人等と話し合いながら決定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ホームでは現在看取りは行っていない。入居者の状態に変化があるごとに、本人、ご家族の気持ちをよく考えて、今後の行き先やケアの方針を共有して支援に繋がっている。	ホームの医療面での支援に限界もあり、ホームの運営法人で複数の特養を運営している体制にも合わせながら、現状は、利用者の段階に合わせた生活場所の移行が行われている。家族ともホームの基本的な方針の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	市の出前講座を利用し、消防署員によるAED、人工呼吸、心臓マッサージなどの救急救命の講習を定期的受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練や避難経路の確認、消火器の取り扱い方などの自主訓練を年2回実施している。普段は防災ラジオ等で災害の情報を得ている。また、災害等による停電を想定して、施設内の非常用の電源共有システムを導入した。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等も行われており、職員間で連携した対応が行われている。運営推進会議を通じた訓練を実施し、関係の方との連携につなげている。また、新たにホーム内に蓄電池を設置している。	ホームでは、蓄電池を設置する等、災害に対応する新たな取り組みが行われている。現状の備蓄品の確認も含め、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	家事等お手伝いして頂いた時には感謝の言葉をかけ、相手の人格を尊重し、プライバシーを損ねないように対応を心掛けている。	ホームの基本理念に利用者一人ひとりを尊重した対応を行うことも掲げられており、ミーティング等の機会を通じて職員間で確認する取り組みが行われている。また、対応が困難な方についても職員間で検討を重ね、利用者への対応や声かけ等につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で常に声掛けや様子の観察に努め、出来るだけ問いかけるように接して、入居者の方が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日中は共用スペースで過ごされる方が多く、それぞれ気の合う人同士で会話を楽しまれている。また本人の希望で自室で休まれる人もいたり、各自のペースで自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来るだけ本人に着たい服を選んで頂けるよう声掛けをしている。自ら選ぶのが難しい方は職員と一緒に選んだり、本人の気持ちに添った対応を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を決める段階から、入居者の方々に参加して頂き、食事の準備、食事、後片付けを職員が見守りながら一緒に行っている。	職員でメニューを考えており、利用者の好みや嗜好等にも配慮した取り組みが行われている。利用者もできることに参加している。おやつ作りや季節等に合わせた食事作りが行われている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	家庭的な料理でバランスの取れた献立になるように考えている。入居者の状態に応じて、刻み対応や小皿に取り分けたり、食べやすいように配慮している。食事以外でも嗜好に合わせた飲み物を提供したり、常時お茶が飲めるようにしてあり、定期的な水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きして頂くように声掛けしている。見守りにより、歯の痛みや腫れ、出血などを見逃さないように様子観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	入居者ごとの排泄の間隔を把握し、声掛け誘導してトイレでの排泄を支援している。尿意便意の無い方、後始末の難しい方などには、本人の気持ちに配慮してさりげない介助をするよう心掛けている。	利用者の状況等にも合わせた対応を行い、職員間で申し送り等を行いながら、利用者の排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。トイレでの排泄が継続できるように利用者への声かけが行われている。また、看護師による医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の状態を記録して把握すると共に、家族、主治医などの情報を共有することによって、薬の調整など必要な対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴の好みに合わせて順番を調整したり、介入の仕方を工夫している。マンツーマンで介助を行っている為、一人一人とゆっくりと会話できる機会となっている。	ホームでは、利用者が週3回の午後の時間に入浴できるように支援が行われており、利用者への随時の声かけが行われている。入浴を拒む方についても、職員間で支援方法等を検討しながら定期的な入浴につなげる取り組みが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一日のゆっくりした時間の流れの中で、各自好きな時に休息されている。各自の睡眠の様子に合わせて、食事の時間を調整したり、必要に応じて部屋の温度調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	現在、服用されている薬の説明書がファイルしており、変化があった時は、申し送りノートに記入し情報を共有するようになっている。服薬の際は、飲み終えるまでの確認を必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の出来る事、出来ない事を把握し、日々の生活の中での張り合いや、趣味の支援をしている。毎月の行事で、外出や季節のイベントを企画し、楽しんで参加して頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の散歩や買い物で戸外に出掛けたり、気分転換して頂けるように支援している。ご家族によっては、定期的にお出掛けして頂いている方もいる。	利用者が日常的に外出することができるように、近隣の散歩や買い物等を通じた外出が行われている。ホームの外出行事については、年間を通じて行われており、様々な場所に出かける取り組みが行われている。また、誕生日外出等の取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の金銭は施設で預り金として管理しており、必要に応じて個々嗜好品や日用品を購入している。毎月ご家族には収支の報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の希望に応じて電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同空間は日当たりも良く、外の景色もよく見えて四季を感じる事ができる。道路からも離れているので、車の騒音も少なく、静かに過ごすことができる。	ホーム内は、広めの空間が確保されている他にも、食堂と居間が別の場所になっていることで、日常生活を通じたメリハリ感にもつながっている。ホーム内は落ち着いた雰囲気であるが、元利用者による多くの絵画が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用のスペースは3か所あり、(リビング、ダイニング、和室)それぞれ自由にTVを観たり、気の合った者同士でおしゃべりしたり、新聞を読んだりとゆっくりと過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れた家具や私物が持ち込まれている。家族の写真を飾っている方もいる。	居室については、利用者や家族の意向等にも合わせた様々な物の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の居室の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の中には、家族の写真や趣味の物等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日常的に使用するトイレには分かりやすいような表示をしたり、居室入口には表札を掲げている。食事の時に使う個人の茶碗やコップには記名してある。		